

分野別事例紹介

環境保全分野

自然に触れて行う活動から、日常生活の中で行える活動もあります。学校周辺や公園、観光地等での清掃活動の他に、学校と地域がつながる中で、活動が広がっています。

- 学校で育てた花苗を地域の花壇に植え、定期的に手入れ
- 外来種や害となる樹木について学び、除草・伐採作業を実施
- 清掃活動の結果をポスターにして、地域の掲示板に掲示
- 駅前や商店街でエコバック推進等のキャンペーン活動に参加
- 古新聞を利用したフラワーポットを作成し、地域商店街や児童館等に寄贈
- エコフェスティバル、環境学習会等での進行補助、会場の清掃
- 公園や散策路、商店街等に寄贈するベンチ、車止め等の作成



地域で環境をテーマに活動している団体との交流から、その活動団体の行事に参加したり、自治会や区市町村で実施する清掃活動に参加したりするなど、生徒だけの活動から、地域で活動している方たちと一緒に活動も広がっています。

》ご協力いただいている特定非営利活動法人green birdの副代表、大澤真輝さんにお話を伺いました。

green birdは、「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信の参加型ボランティアプロジェクトです。「ゴミのポイ捨て、かっこ悪いぜ!」という気持ちを広げるため、全国各地でおそうじボランティアを行っています。最初に相談があった時に、正直に言うと「奉仕の授業」という言葉に少し違和感を感じましたが、地域のため、環境のために動き出すことを応援する仕組みができたということで、是非協力したいと思いました。授業は1回でも、改めてgreen birdの活動に参加してくれたり、ゴミのポイ捨てをやめてくれたり、人や街にやさしくなったりと、継続性を生み出せるような取組になるように活動しました。

最初は「ゴミ拾いなんて面倒くさい」というような雰囲気だったのですが、30分ほど過ぎるとゴミ探しに集中して、みんな楽しんでいる様子でした。

ボランティアや地域活動は、スポーツやカラオケなどと同じように、楽しみながらやるものだと思います。買い物ついでにでも、デートついでにでも、動機が不純でもOKです。とにかく動かなければ何も変わらないし、成長もありません。ボランティアの活動の魅力は、自分が動くことで、自分だけでなく自分以外の誰かも幸せにできることです。是非楽しんでやってみてください。



green bird <http://www.greenbird.jp/index.php>

国際協力分野

地域の国際交流団体や、国際協力団体等との活動も行なわれています。国際交流イベントの補助や日本文化紹介、海外に寄贈する文房具等の収集や、支援物資の発送作業などがあります。

また、なかなか体験の中で国際協力について取り組むことが難しい場合でも、事後学習の中で、海外でのボランティア体験をされた方から、お話を聞く授業も多く行われています。社団法人青年海外協力協会では、様々な職種として海外で活動してきた青年海外協力隊の方を学校に紹介するとともに、体験施設として地球市民ひろばを開放しています。

青年海外協力協会 <http://www.joca.or.jp/>



体験内容が広がっている分野について紹介します。

災害救援分野

様々な規模と種類の災害がありますが、防災・災害救援活動にはボランティア活動が重要な役割を果たします。災害時に高校生が行動できることは数多くあります。緊急時に適切な支援を行うことができるよう、日常から防災について実行できることを学ぶとともに、繰り返し訓練することが必要となります。

- 応急手当講習
- 防災館での災害疑似体験
- 学校の防災設備の確認、避難経路の確認
- 学校災害対応マニュアルの確認
- 近隣の一時避難所の現場確認、防災倉庫の確認



》都立千早高校での避難所体験学習

都立千早高校では、体育館に「負傷者への対応」「災害時要援護者への配慮」「停電による暗闇での避難体験」「仮設トイレ設置体験」「就寝時プライバシー体験」のコーナーを設置し、クラスごとに体験しました。

》指導していただいた池袋消防署警防課生活安全係長(指導当時)の井桁担当係長にお話を伺いました。

東京消防庁では、防災に関する教育を幼児期から社会人にいたるまで体系的に実施する総合防災教育に取り組んでいます。この中で、高校生は「防火防災において社会貢献できる」という存在として位置づけています。今回の訓練では、応急手当講習はすでに受講されているとのことでしたので、担架搬送と徒手搬送(一人で傷病者を搬送する方法)についてお伝えしましたが、高校生の可能性を改めて感じました。是非、多くの高校で町内会でのD級ポンプ(可搬式ポンプ)の訓練や、自治体の防災訓練へも参加していただければと思います。

消防署に普通救命講習についての指導依頼をいただくことができますが、3時間の講習で受講者10名に対して指導者1名、という基準があります。中学校で講習を受けた高校生が、街で心肺蘇生を実施した例があるように、一度は受講していただきたい訓練です。指導にあたっては、交代制勤務の中で指導者を確保することになりますので、ぜひ、講習内容も含めて早めに御相談ください。



》防災館

池袋、本所、立川に東京都消防庁が所管する防災館があり、地震体験、煙体験、消火体験などの様々な体験についてインストラクターが案内します。体験の予約は1年前から受付ています。

東京消防庁 組織・施設案内 <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/ts/index.html#bou>

池袋防災館 池袋駅から徒歩5分 本所防災館 錦糸町駅から徒歩10分 立川防災館 立川駅からバス「立川消防署」下車すぐ

》池袋防災館

池袋防災館では、消火・地震・救急・煙の4体験を概ね2時間、1グループ32名で、最大4グループ(128名)が体験できます。さらに視聴覚教室での防災映画の上映もあります。今年の3月には、新しく救出・救出コーナーと図上訓練コーナーも完成しました。

「防災映画には、中学生が大震災発生時に地域で活動する若い防災力の重要性を表現した映画もあります。体験には、是非先生も一緒に参加し、事後学習につなげていただければと思います。」

(三村達也館長)

